

特集

「こんにちは赤ちゃん事業」を成功させるために

先進事例に学ぶ

こんにちは赤ちゃん事業のあり方と保健師への期待－厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課

取り組み事例

- ①保健師と助産師が状況に応じて訪問 神戸市の取り組み ―――― 加藤尚子
 - ②保健師と子育て支援員が状況に応じて訪問 犬山市の取り組み ―――― 樽井美樹
 - ③保健と福祉の連携による育児支援家庭訪問事業へのつながり 松山市の取り組み ―――― 関岡千津野
- 事例解説 こんにちは赤ちゃん事業を成功させるためのポイント ―――― 中板育美

編集後記

●編集後記を書いているこの時期はスギ花粉が飛び始め花粉症の人々がマスクをつけ、交互に訪れる春の陽気と冬の寒さのため風邪を引いている人もいます。本誌が発行になる頃は桜の花が咲き始めているだろう。春先恒例の人事異動の時期となるが、私たちの編集室は一足先に異動があり体制が変わることになった。本誌に長く関わったベテランの室長と、4年間引っ張り続けたスタッフが他の部署に異動することになり、ただ1人残される私は担当になってまだ4か月足らずの歳をとった新人。新しい仲間とともに、より良い誌面づくりを目指す……という格好はいいが、楽屋裏は結構どたばたで、不安なことだらけである。

読者の周りでも人が入れ代わり、新しいスタッフが加わったりしているのではないだろうか。今回の特集は、保健師にとっての基本技＝「相談対応」の技術を取り上げた。10の事例はそれぞれに行き詰まり、また失敗した事例だが、その失敗から学ぶことで、次の失敗を防ぎ、成功へ結びつけばこの特集の価値はあるものとなります。読者の皆様からの感想をお待ちしています。(杉之尾)

●人事異動により、今号を持ちまして弊誌を離れることになりました。担当した4年の間、保健師を取り巻く環境は大きな変化がありました。平成の大合併、地域包括支援センターの設置、障害者自立支援法の施行、特定健診・特定保健指導の開始、etc…。そこで見てきたのは、制度に振り回され専門職としてのアイデンティティの確立に苦しみながらも、常に住民の幸せを優先に考え、奮闘する保健師の姿でした。編集者としてその姿をどう誌面で表現するか模索する日々でしたが、雑誌づくりの過程を通じて多くの保健師や研究者の方々と接点を持てたことは何よりの財産です。この場を借り、深く感謝申し上げます。

人は独りでは生きていけません。家族があり、地域があり、さまざまな組織の中で生きています。人と人が交わる中で、その“輪づくり”のために、保健師という専門職が今日も地域のどこかで奔走していることを忘れません。皆様の今後のご活躍を願うとともに、引き続き、弊誌へのご愛顧を宜しくお願い申し上げます。保健師の未来に幸あれ。(和田)

保健師ジャーナル 第65巻4号 2009年4月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd, 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2009, Printed in Japan

1部定価1,365円(本体1,300円+税5%) 2009年年間購読料15,000円(税込,送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/杉之尾・和田・伊藤

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/09/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。